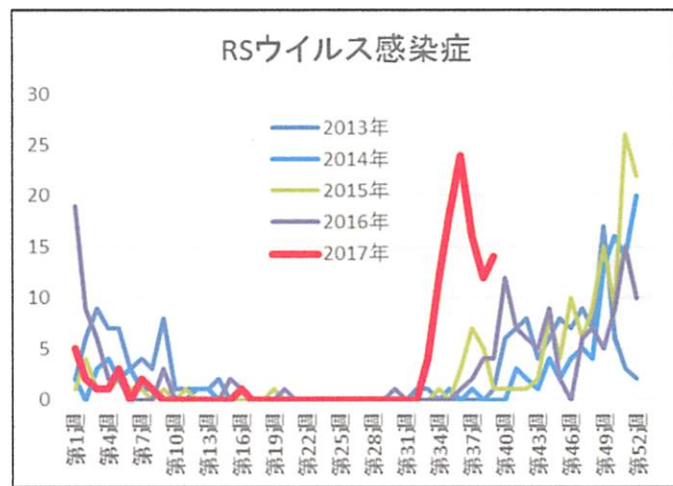
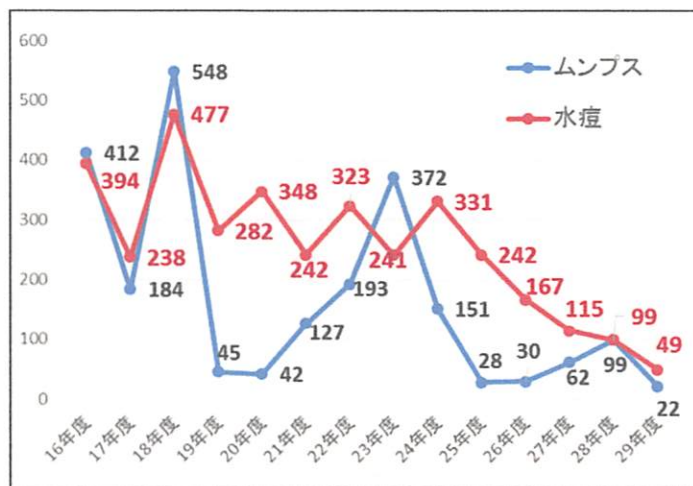


週間感染症情報

2017年38週～39週 2017年9月18日より2017年10月1日まで

	38週	39週
麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)		3
ムンプス(おたふくかぜ)		1
百日咳		
溶連菌感染症	6	7
手足口病	7	15
ヘルパンギーナ	1	2
伝染性紅斑		
感染性胃腸炎	15	39
ロタウイルス(再掲)		
便アデノウイルス(再掲)		1
突発性発疹	5	1
伝染性膿痂疹(とびひ)	9	18
ヘルペス性口内炎		
アデノウイルス感染症		2
RSウイルス感染症	12	14
マイコプラズマ感染症		1
インフルエンザ(臨床診断含む)		
インフルエンザA		
インフルエンザB		
A+B		

38週と39週2週分の報告です。小児科の患者さんは少ないです。寒くなり喘息の児が発作を起こして来院します。4月から9月までの半年間の水痘・ムンプスの報告数は、左下のグラフの様に、水痘49例、ムンプス22例でした。水痘は、市内保育園での流行例21例がありました。ワクチン未接種例は3例、ワクチン接種例は軽症で、発熱はなく発疹が10個程度で水疱にもならずすんだ例が見られました。流行中でなければ、診断が困難な症例です。ムンプス抗体検査をして否定された症例が半数近くあり、週間感染情報の報告とは異なっています。流行時のムンプスの臨床診断はほぼ確実ですが、非流行時の臨床診断は半数近くがムンプスではないという報告と同様の結果でした。左下のグラフから分かるように、4～5年おきの報告数のピークが今のところありません。総社市内の保育園では、ムンプスワクチン1回接種率が85%近くあり流行はありませんでした。ムンプスはワクチン1回接種例が8例、2回接種例はありませんでした。ムンプスワクチンも2回接種が必要です。感染性胃腸炎の報告が増加しています。嘔吐を主とする、ノロウイルスと思われる症例を見かけるようになりました。RSウイルス感染症の流行は続いています。検査は乳児や重症感のある症例のみにしています。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyaiinsoja.webmedipr.jp/>)